

「オジン国憲法」もあるかな？

書店先で「オヤジ国憲法でいこう！」の書名、帯の「若いって、ダメじゃん。いまどきのヤングよ。キミたちのモンモンとする日常を迎え撃つ、アナーキーな人生のルールを伝えよう。オヤジの叫びを、心して聴け！」が目にとまり、とっくにヤングを過ぎた自分だが、精神年齢は、日々戸惑い、迷うヤングなだけに、購読した。

14, 5歳のヤングを対象に書かれているからか、殆どの漢字にルビが打たれ、字も大きさも色々、Pも所々カラフルで、「オヤジの叫び」を何とかヤングに「聴け！」という、漫画家でありエッセイストの著者の優しさ、苦心が伝わってくる。

「オヤジ国憲法前文」に曰く、「……。オヤジとしては、ヤングの悩みや混乱に、宇宙のルールを従えて対峙する。すなわち、ここに5条15項の『オヤジ国憲法』を發布し、もってヤングに対して、『若いって、ダメじゃん！』と高らかに宣言するものとする。」

「第1条：個性ハ 必要ナシ 第2条：友達ハ 大切ナモニアラズ 第三条：恋愛ハ ロクナモノデナシ 第4条：真理ヤ理想ハ 妄想ナリ 第5条：ヤングノ敵ハ 隣室ニアリ」と、各条文毎にアドバイスしている。

また、「オヤジ国憲法補則」に曰く、「……。ヤングよ。キミらは、生きているだけでもう、すごいのである。とりあえず、ヤングが多少悩んでいようが混乱していようが、キミらのひとりひとりが『いま』『ここ』に生きているという奇跡を、心から祝福するものである。オヤジとしては、もう、これ以上のことを望んではない。」

要は、矛盾したことを云っても「あれはもう、仕方ない」と最初から諦められているオヤジから云わせれば、「正しいか、間違いか」の二択からしか反応しない硬直した考え方、生き方をしなくていいんだよと、ヤングに語りかけているようである。

つまり、何でもかんでも二択からの反応、評価しかしない今の世相に、オヤジ国憲法各条文のように世相常識と逆説的なユーモアから、「考え方、意見は自由で、色々あるんだよ」といいようである。

何のなんの、14, 5歳対象の「オヤジ国憲法」でなく、大人、世相對象の「オヤジ国憲法」でもあった。

「オヤジ国憲法」があるなら、オヤジを対象とする「オジン国憲法」もあるのかなあ〜。
次は、その手の本を探して読んでみようっと！

(2005年11月15日 記)